

# ロールプレイによるカンファレンス技法学習とその効果

## — 実習指導者講習会での試みから —

佐藤 正美 真部 昌子 宮本千津子 八島 妙子

### 要 旨

我々が実習指導者講習会の授業で取り入れた、学生の疑似体験とカンファレンスにおける実習指導者の役割の認識をねらいとした演習（ロールプレイ）方法について報告した。さらに、グループによるロールプレイの特徴を述べ、演習後レポートから学びとなった内容を整理し、学習効果を検討した。

その結果、次の6つの学びが分析された。①学生の立場になる ②指導者の役割の認識 ③カンファレンスは学びの場である気づき ④指導者としての姿勢の再認識 ⑤考え方の多様性 ⑥自己への気づきと課題であった。これらの学びは、ロールプレイによる体験とグループワークや発表により得られたと考えられ、さらに教育学や人間理解の授業内容も反映していることが伺われた。今後は、カンファレンスでの具体的方略の学びにもつながる授業計画を検討することが課題である。

キーワード：実習指導者、指導者講習会、ロールプレイ、カンファレンス

### はじめに

当短期大学が神奈川県からの委託を受け、実習指導者講習会（以下、講習会とする）を開催し始めてから4年になる。実習指導者とは、看護学生が臨床実習に行った病院で、看護教員とともに学生指導をすることを業務の一つとして行う看護婦を指すが、特別な免許や資格を要するものではない。実習指導者は都道府県あるいは文部省が開催する講習会を受講していることがよりのぞましいという程度で、病棟での勤務を行いながら、看護学生の指導にあたっているというのが現状である。従って、学生の指導を行ったとしても、特別な賃金を受けることはほとんどない。しかし、専門職として、後輩を育てるという必要性もあることから、意欲的に学生の指導に取り組んでいる看護婦が多い。

平成11年度の講習会の講義科目（表1）を検討する際、実習病棟で行う学生カンファレンスを効果的に行うには実習指導者がどのように関わるかが望ましいのか、ということが話題になった。カンファレンスに臨む学生からの発言が少なかったり、また、内容が薄いカンファレンスになることが少なからず

あるからである。

また、臨床指導者講習会に関する文献は、カリキュラム全体の評価<sup>1)</sup>や、講習会の学びと影響要因の検討<sup>2)</sup>などで、実際の授業内容を具体的に示したものが少ないことから、受講生に効果的なカンファレンスやカンファレンスに関わる際の技法を考えてもらえるような機会を設定し、その効果を見る必要性を感じた。将来、受講生が臨床指導者として学生に関わる可能性は非常に高いことから、カンファレンス技法を習得できるならば、その意義は大きいと考える。

ロールプレイは、看護基礎教育および基礎教育終了後の職場研修や卒後継続教育機関で、多様な目的で活用されている<sup>3)</sup>。院内の実習指導者研修でロールプレイを取り入れ、その効果が報告<sup>4)</sup>されており、適した方法と考えられた。

今回実施した演習（ロールプレイ）を取り入れた授業方法について、その具体的な進め方を報告する。さらに、グループによるロールプレイの特徴を述べ、演習後レポートから学びとなった内容を整理し、学習効果を検討した。

### \*カンファレンス

conference：相談・会議・協議 この場合は、学

生と実習指導者、教員が患者のケア、ケア計画などについて、話し合うこととする。

験年数は、1ヶ月から8年であった。

## I. 平成11年度実習指導者講習会の概要

### 1. 受講生の概要

神奈川県内の保健所を含めた医療施設に勤務している看護職44名である。年齢は、24歳から49歳（平均33.0歳）で、全員女性であった。実習指導経験が有るのは32名、無いのが12名であった。実習指導経

### 2. 講習会期間

平成11年8月2日～同9月16日までの7週間

### 3. 場 所

講義および演習：川崎市立看護短期大学

実習指導見学実習：川崎市立川崎病院と聖マリアンナ医科大学病院である

表1. 平成11年度実習指導者講習会の学科目一覧

教育科目	授業科目	学習内容
教育に関する科目 (45 時間)	教育概論 (30 時間)	教育原理 (12 時間)
		教育方法 (12 時間)
		教育評価 (6 時間)
	教育心理概論 (15 時間)	青年心理 (3 時間)
		学習心理 (12 時間)
看護教育に関する科目 (120 時間)	看護教育論 (30 時間)	看護教育論 (3 時間)
		実習指導概論 (6 時間)
		人間理解 (21 時間)
	看護教育の展開 (27 時間)	看護教育課程 (6 時間)
		看護過程 (6 時間)
		各看護学・指導方法 (15 時間)
	実習指導の展開 (63 時間)	実習指導方法 (6 時間)
		実習指導方法演習 (45 時間)
		実習指導体制・見学 (12 時間)
一般教養に関する科目 (15 時間)	保健,医療,福祉の動向および看護の動向 (3 時間)	
	情報の活用 (9 時間)	
	トピックス (3 時間)	

#### 4. 講習会カリキュラム

前半には教育に関する科目である教育概論（教育原理、教育方法、教育評価）、教育心理概論（青年心理、学習心理）や人間理解に関する科目、情報活用などを集中して組んだ。

後半には看護教育に関する科目である看護教育論（看護教育論、実習指導概論）、看護教育の展開（看護教育過程、看護過程、各看護学・指導方法）、実習指導の展開（実習指導方法、実習指導方法演習、実習指導体制・見学）を集中して組みこんだ。

今回報告する演習（ロールプレイ）は、前半の一般教育科目が終了し、実習指導方法演習が始まる前の8月26日一日を使い、実習指導概論演習に組み入れた。

## Ⅱ. 演習のねらい

### 1. 学生の疑似体験

実習中のカンファレンスでは、学生は往々にして自信がなく緊張しうまく表現できず、自分の発言に対する相手の反応を気にする。また、自分の受け持ち患者を理解し、患者との関係を築き、看護計画を考えることで精一杯の状況も多々ある。このような状況である学生の視点からカンファレンスを考え、見つめてほしいと考えた。

### 2. カンファレンスにおける実習指導者としての役割の認識

カンファレンスは実習に不可欠であり、重要な学習の場である。学びに繋がるカンファレンスを促進させるためには、実習指導者がカンファレンスでの役割を認識し、学生を支援することが必要と考えた。

上記2点を学習できるよう、ロールプレイするカンファレンスの場面を設定した。設定した状況は、実際にカンファレンスで困ることの多い場面（学生の発言が全くなく意見交換が活発に進まない）とした。

## Ⅲ. 演習方法

### 1. 演習形態

1 グループ5-6人、計8グループ

一人の教員が2グループを担当し、ワークが促進するようサポートした。

### 2. 演習の進め方

#### Part 1：ロールプレイまでの準備（120分）

- ①オリエンテーション（演習の目的と進め方の説明）
- ②グループに分かれ、指導者役を1名決める。
- ③各学生役へ、受け持ち患者に関する資料を配布する。（実際に学生が臨床実習で作成したレポートである。レポートは、情報量が多いものから少ないものまで選択し、6名分準備した。）
- ④指導者役へ、各学生の受け持ち患者全員の資料を配布する。
- ⑤グループごとに、患者情報以外に知りたい情報をあげてもらい、全員に情報提供する。
- ⑥学生役の人は、資料を元に受け持ち患者の看護計画を考え、ワークシートに記載する。
- ⑦指導者役の人は、カンファレンスをどのように進めるかの計画を考え、ワークシートに記載する。
- ⑧予め任意に指定した発表対象となる患者を伝え、各グループで発表役の学生を確認する。
- ⑨各グループでそれぞれ、司会と書記の学生役を決める。

#### Part 2：シナリオに沿ってのロールプレイ（30分～60分）

- ⑩各々役割になり、シナリオに沿ってグループごとにカンファレンスをロールプレイする。（とりあえず進むまでやってみる）

#### — シナリオ —

3年課程の看護短期大学

3年次前期（5月半ば）

成人看護学実習（2週間：10日間）

実習3日目（第1週目の水曜日）

カンファレンスのテーマ

『 さんの受け持ち患者さんのアセスメントを確認し、看護計画を立案する』

司会の学生「今日は、『 さんの受け持ち患者さんのアセスメントを確認し、看護計画を立案する』テーマでカンファレンスを行います。それでは さん発表して下さい。」

発表の学生「（資料を元に発表する）」

司会の学生「ではみなさん、ご意見・ご質問をお願いします。」

（シーン）

### Part 3：個人ワーク（30分）

⑩次の項目について、各自ワークシートに記載する。

- ・テーマに沿っていたか
- ・発表した学生の問題は明確になったか
- ・学びはあったか
- ・話しやすい雰囲気でカンファレンスが進んだか
- ・カンファレンスに参加できたか

### Part 4：グループワーク（30分～60分）

⑪⑫の内容についてグループで意見交換する。

⑬次の項目について、グループで意見をまとめる。

- ・どのようなカンファレンスになれば良かったか
- ・効果的なカンファレンスとはどのようなものか
- ・カンファレンスにおける指導者の役割は何か
- ・カンファレンスをするにあたって、押さえておかなければならない情報は何か

⑭進められるグループは、この事例で、指導者の好ましい関わり方の例を考え、シナリオを作り発表に備える。

### Part 5：発表（30分）

⑮学んだことおよび感想をグループごとに発表。

⑯発表後、4名の教員が個々一言ずつコメントを述べ、最後に個々に学んだことおよび感想を記載してもらった。

## IV. グループによるロールプレイの特徴

司会者の問いかけに対して、実際に学生の発言が全くない状況となったグループは3グループあり、残りの5グループは、そのような場面がなくロールプレイが進行した。

司会者と指導者および発表者の発言が多く、他の学生役の発言が少なかったグループ、司会者その他の学生役が発表者へ質問攻めとなるグループ、他の学生役各々の意見を司会者がたずねたグループ、まずは司会者および他の学生役が発表者に質問し、発表者がそれに答えた後、話し合いに発展したグループ、指導者の意見と質問が多く、発表者がそれに答えたグループなど様々であった。

司会者から「指導者の方から何かありますか」とふられて初めて指導者が発言したのは、4グループあり、半数であった。そのうち、カンファレンスの最後に意見を求められて初めて指導者が発言したのは、2グループあった。

指導者が話し合いの課題を提案し、活発に話し合いが進んだのは、2グループあった。

## V. ワークの感想および学んだこと

ワークの感想および学んだことについて分析したところ、以下の6つに整理された。分析対象は、研究協力の承諾が得られた37名の記述内容である。以下、受講生の記述をそのまま「 」で示した。

### 1. 学生の立場になる

「学生の身になって考えられた」「学生の緊張を知ることができた」「学生の気持ちを思い出した」など、過去の自分の体験と重ねながら、実習およびカンファレンスでの学生の気持ちを考えることができていた。また、「意見を求められても発言できないときは、そこには理由がある」など、発言しないという表面に現れる行動のみに目がいくのではなく、学生理解が深まった意見もあった。

また、「学生になりきれなかった」という感想もあり、臨床経験を積んだ自分が学生の立場になることの困難さを自覚した感想もあった。

### 2. 指導者の役割の認識

「良いカンファレンスに導く役割がある」「大きな役割を担っている」と、カンファレンスにおける指導者の役割を認識する意見があった。「発言しやすい環境づくり」「一緒に参加する」「話すきっかけを作る」「テーマが難しいときは、イメージしやすい形で投げかける」と具体的な方法も述べられていた。また、「良いカンファレンスができないのは、学生の準備不足、学習不足と学生に原因があると思っていましたが、指導者の役割ができていなかったためだと気づいた」「今までは、最後のコメントだけ言っていたのでだめだった」と、過去の自分の関わり方を評価していた。

また、「指導者が学生に掛ける言葉かけの重さを改めて感じた」「指導者の存在の大きさ」と、学生の立場から感じた自分たち指導者としての役割の重要性の再認識につながっていた。

### 3. カンファレンスは学びの場である気づき

「カンファレンスは学生の学びの場であると思った」「全ての学生の学びにつながるように気を配る」など、発表者のみが学ぶ場ではなく、グループメン

バー全員にとっても学びとなることが大切であることを感じていた。

#### 4. 指導者としての姿勢の再認識

「指導者だから正しい意見をたくさん出さなければいけないということではなく、学生と一緒に考えていけばいい」と、指導者としての姿勢について考えた人もいた。また、「学生一人一人の意見を否定せず、尊重していくことの大切さ」「学生を上から見下ろすのではなく、同じ目線にたって一緒に学んでいけばいい」「相手の意見を否定せず、なぜそう考えたのかを理解し肯定することの大切さ」「学生の様々な意見を否定せずに聞くこと」など、学生一人一人を一個人として尊重することの大切さを述べていた。

さらに「学生が言って良かった、やって良かった」と思えて自信が付けられるような体験を提供することが大切」「学生の力や思いをいかに引き出してあげるかが重要」と、指導者としての自分の見方考え方を学んだだけでなく、学生の持てる力を引き出すという、教育的関わりに重要な姿勢についての意見もあった。

#### 5. 考え方の多様性

「各グループのいろいろな意見が聞けて良かった」「グループメンバーの意見、グループごとの意見を聞いて、たくさんの方や考え方を共有することができた」「学生の気持ち、指導者の関わり方、あり方が個々の考え方により何とおりもあることを学んだ」と、様々な考え方を知り、それを自分に取り込

むことができた意見があった。

#### 6. 自己への気づきと課題

「カンファレンスの形式にこだわっている自分に気づいた」「学生に共感していても、態度で示していない自分の気づき」「成功しなければカンファレンスではない、という思いこみの強かった自分に気づいた」「自分の抱いていた固定観念に気づいた」など、自己への気づきも多くあった。自己への気づきから「感性を磨き、思ったことを素直に表現する必要がある」「指導者としての自己の人間性の成長や感性など、いろいろな場で学ぶことの大切さ」など、自分自身の今後の課題を見いだしている人もいた。

また「学生になりきれなかった」「その場にたつことは難しい」など、学生の立場に立とうと思っても難しい自分であることの気づきもあった。

### VI. 考 察

前述した『学生の立場になる』から、学生の疑似体験という演習のねらいは達成できたといえる。実際に学生が臨床実習で作成したレポートを使用したり、ロールプレイまでの準備が効果的に働いたと考えられる。また、演習のもう一つのねらいである、カンファレンスにおける実習指導者としての役割の認識は、指導者役はグループで1名であったが、学生役となった者も、学生の立場から指導者の役割を考えたり、グループワークにより認識が深められたといえる。したがってこの演習方法は、これらのねらいを達成できる効果的な方法であったといえる。

さらに、演習のねらい以外に得られた学びを整理

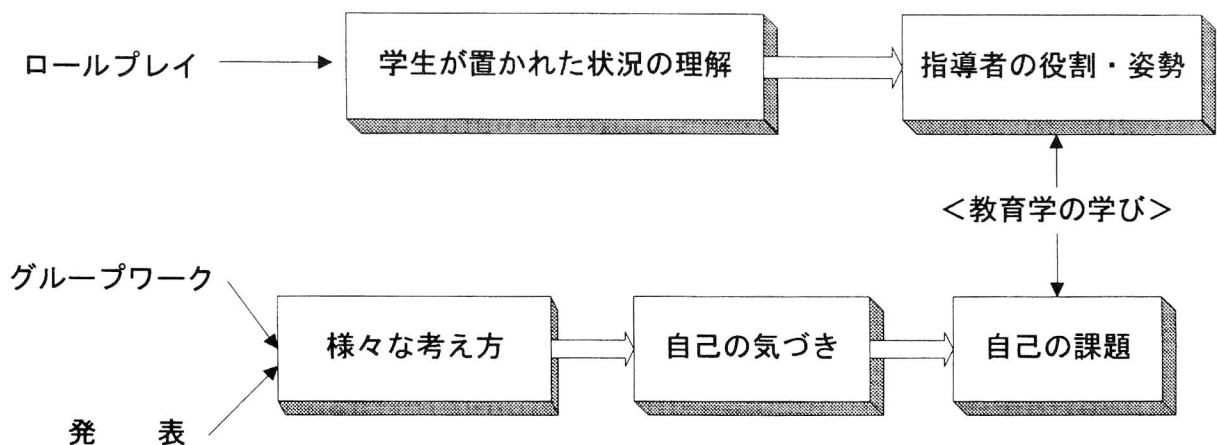


図1. 演習で得られた学び

し、その関連を想定したものを図1に示した。

ロールプレイによる学生の疑似体験により、学生時代の自分を思い出したり、学生が置かれている状況の理解につながったことから、指導者としてどのような役割があるのか、どのような姿勢でいることが学生にとって学びとなるのかを考えられたと言える。このことは、カンファレンスの場面を通して、教育者としてどうあるべきか、教えるとはどういうことか、という教育学で学んだ理論を、実践の場で応用して考えることができたといえる。

それぞれの役になり体験することで、自ら心を傾けて感じ考えることができた。グループワークにより各々の意見が交換され、グループごとの発表によりさらに多くの意見を聞くことができた。これが、自分とは異なる多様な考え方を知ることにつながった。また、多くの意見を聞くことにより、自分の考えを洞察し、自己の気づきにつながったといえる。これは、人間理解の授業を修了していたため、自己を振り返ることの動機付けができていたことが影響したと考えられる。さらに、自己の気づきと教育学で学んだ教育する者としてのありようから、今後の課題が見いだされたといえる。

以上よりこの演習を通して、多くのことを感じ学ぶことができた。しかし、カンファレンスを効果的に進める具体策を見いだすには至らなかった。グループによるロールプレイの特徴から、学びの場となるカンファレンスとなるよう指導者として関わっていたグループは少数であった。このことから、今後、カンファレンスでの具体的な方略の学びにつな

がる授業計画を検討することが課題である。

## Ⅶ. 結 語

我々が実習指導者講習会で実施した、学生の疑似体験とカンファレンスにおける実習指導者の役割の認識をねらいとした演習（ロールプレイ）方法について報告した。演習後レポートを分析した結果、以下の6つの学びがあった。①学生の立場になる ②指導者の役割の認識 ③カンファレンスは学びの場である気づき ④指導者としての姿勢の再認識 ⑤考え方の多様性 ⑥自己への気づきと課題

これらの学びは、教育学や人間理解の授業内容も反映していることが伺われた。今後は、カンファレンスでの具体的方略の学びにもつながる授業計画を検討することが課題である。

## おわりに

今回、初めて臨床実習のカンファレンス場면을疑似体験するというロールプレイを取り入れてみた。結果の項で述べたように、多くの受講生が、疑似体験をすることによってさまざまな点に気づき、かつ自分自身を振り返ることができた。教える立場から、教えられる立場への変換は臨床の現場では、まず体験できないことである。普段体験できない体験を通して、日常では感じることはできなかった部分が考えられたものと思われる。

今後も、このプログラムを改善し、臨床実習講習会に取り入れたいと考えている。

## 文 献

- 1) 青木康子，國岡照子，陣田泰子：実習指導者講習会参加者の受講前後の変化－2年間の実施を通して－，川崎市立看護短期大学紀要，3(1)，95-104，1998.
- 2) 中山和美，中垣紀子，宮 宣子ほか：実習指導者講習会の学びに影響を与える因子の検討－看護婦経験年数と実習指導経験から－，第29回 日本看護学会集録（看護管理），215-217，1998
- 3) 鈴木育子，高橋みや子，布施淳子ほか：看護教育におけるロールプレイの活用と今後の課題，看護教育，36(11)，977-983，1995.
- 4) 福本弘子，長谷川紀子，永留てる子ほか：院内の臨床実習指導研修における教授内容の検討－実習指導案作成・ロールプレイングの有効性－，第23回日本看護学会集録（看護管理），24-27，1992.